

「ミレトスからティルスへの港へ」

2016年08月20日

使徒言行録 21章 1節～6節 わたしたちは人々に別れを告げて船出し、コス島に直航した。翌日ロドス島に着き、そこからパタラに渡り、フェニキアに行く船を見つけたので、それに乗って出発した。やがてキプロス島が見えてきたが、それを左にして通り過ぎ、シリア州に向かって船旅を続けてティルスの港に着いた。ここで船は、荷物を陸揚げすることになっていたのである。わたしたちは弟子たちを探し出して、そこに七日間泊まった。彼らは“霊”に動かされ、エルサレムへ行かないようにと、パウロに繰り返して言った。しかし、滞在期間が過ぎたとき、わたしたちはそこを去って旅を続けることにした。彼らは皆、妻や子供を連れて、町外れまで見送りに来てくれた。そして、共に浜辺にひざまずいて祈り、互いに別れの挨拶を交わし、わたしたちは船に乗り込み、彼らは自分の家に戻って行った。

パウロはエルサレム教会へ異邦人教会からの支援金を届ける使命をもって、ミレトスまで来た。ミレトスで、エフェソ教会の長老たちを呼び寄せ、「あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがない」と、心を込めた別れの説教をした。死を覚悟してエルサレムに行くパウロの決意を知り、一同はひざまずいて祈り、涙を流し抱き合っ、別れを惜しんだ。パウロは幾人かの弟子たちと船に乗り、出港した。コス島に直航し、翌日、ロドス島に着き、そこから、小アジアの港パタラに渡った。パタラでフェニキア行きの船を見つけ、それに乗って出発した。キプロス島を左に見て、シリア州に向かって航行を続け、ティルスの港に着いた。ティルス港で船の積荷は陸揚げされた。

このエーゲ海の航行は穏やかなものであっただろう。しかし、パウロの心中は穏やかではなかった。エルサレム教会からは歓迎されるが、ユダヤ人たちから、どのような仕打ちを受けるか、不安と恐れがあった。ユダヤ人たちは、ファリサイ派の優秀な学徒であったパウロがキリスト教徒に転向し、自分たちを裏切り、更に、ファリサイ派が最も大切にしている律法をないがしろにしたことで、パウロを許せず、怒りに燃えていた。

ティルスは異教徒フェニキア人の町で、かつて主イエスが神殿当局から身を隠すために、逃れた町である。そこで、幼い娘が病に侵されたフェニキア生まれのギリシャ人の母親が主イエスに娘の癒しを懇願した。主イエスは「まず、子供たちに十分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない」と拒否すると、母親は「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます」と食い下がった。主イエスは彼女の言葉を聞いて、異教徒に心を開き、癒しを与えられた。

この主イエスの癒しの出来事から、ティルスに信徒が生まれただろう。また、弟子たちの宣教によっても信者たちが少数いたので、彼らを探し出し、7日間、滞在した。信者たちは、パウロがエルサレムに行かないように繰り返し訴えた。ティルスの信者たちにも、パウロの命を狙うユダヤ人の動きがあることが伝えられていたのである。しかし、パウロたちは滞在期間が過ぎ、エルサレムに向かって旅を続けることにした。

ティルスの信者たちは妻や子どもを連れて、町はずれまで見送りに来た。浜辺でひざまずいて祈り、別れの挨拶を交わした。見送りに来た信者たちは、パウロの無事を祈りながら、自宅に帰って行った。

パウロたちはカイサリアを目指し、ティルスから船に乗り込んだ。